

19. 三叉神経節ブロックと抗凝固・抗血栓療法

CQ21：抗凝固薬・抗血小板薬を使用している患者に三叉神経節ブロックを安全に施行できるか？ 出血性合併症のリスクは対照群（抗凝固薬・抗血小板薬を使用していない患者）と同等か？

抗凝固薬・抗血小板薬が三叉神経節ブロックにおける出血性合併症のリスクを増加させるかは不明であるが、抗血小板薬・抗凝固薬を服用している患者に対しては、適切な休薬期間を設けて三叉神経節ブロックを行うことが望ましい。

推奨度，エビデンス総体の総括：1D

解説：

抗凝固薬や抗血小板薬を使用している患者に三叉神経節ブロックを安全に施行できるか、出血性合併症のリスクは対照群（抗凝固薬や抗血小板薬を使用していない患者）と同等か、という問いに対する RCT は存在しない。三叉神経節ブロックによる出血性合併症に関する症例報告もない。海外のガイドラインにおいても、三叉神経節ブロックに関する記載はない。

三叉神経節ブロックは、X線透視下に、頬部から側頭下窩を經由して、卵円孔内に針を刺入して三叉神経節を穿刺する方法が一般的である。三叉神経節の存在するメッケル腔は中頭蓋窩に位置し、三叉神経節周囲で持続性の出血が起こると頭蓋内血腫となる。したがって、三叉神経節ブロックは、圧迫止血が不可能な深部の末梢神経ブロックといえる。

複数の学会により作成された国際ガイドラインでは、深部の神経ブロックは、圧迫止血が困難な解剖学的特徴を踏まえて、中リスクの手技に分類、また、出血の高リスク因子（高齢者、出血傾向の既往、他の抗凝固薬・抗血小板薬の併用、肝硬変または進行した肝疾患、進行した腎疾患）を持つ患者ではハイリスクの手技として分類されているが、三叉神経節ブロックに関する記載はない。ASRA のガイドラインでは、リスクの高い深部の神経ブロックは、脊髄幹ブロックに準じた運用を行うように推奨されているが、三叉神経節ブロックに関する記載はない。欧州のガイドラインでは、深部の末梢神経ブロックに先立ち、深部静脈血栓予防薬およびアスピリンを含めた抗血小板薬を休薬することがオーストリアのガイドラインにおいて推奨されていることについて言及しているが、三叉神経節ブロックに関する記載はない。英国のガイドラインでは、凝固異常のある患者において、深部の神経ブロックは硬膜外ブロックや傍脊椎ブロックに次いでリスクの高い手技と位置づけられているが、三叉神経節ブロックに関する記載はない。

以上より、三叉神経節ブロックは、出血性合併症の報告はないものの、出血に対して注意が必要な神経ブロックであるといえる。海外のガイドラインでは、末梢神経ブロックはアスピリンを含む NSAIDs を休薬せずに施行可能であるとしているものが多いが、三叉神経節ブロックは深部の神経ブロックで、持続性出血が発生した場合のリスクが非常に高いことから、すべての抗血小板薬・抗凝固薬

無作為化比較試験／ランダム化比較試験：
RCT：randomized controlled trial

米国区域麻酔学会：
ASRA：American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine
脊髄幹麻酔／脊髄幹ブロック：
neuraxial block

に関して適切な休薬期間を設けて三叉神経節ブロックを施行することが望ましい。

なお、総論部分との繰り返しになるが、上記推奨事項はあくまでも現存の資料等から考察されたものであり、個別症例に対する適用では、症例ごとの特性に基づき個別に判断されるべきものである。

参考文献

<ガイドライン>

国 際

1. Narouze S, Benzon HT, Provenzano DA, et al: Interventional spine and pain procedures in patients on antiplatelet and anticoagulant medications: Guidelines from the American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine, the European Society of Regional Anaesthesia and Pain Therapy, the American Academy of Pain Medicine, the International Neuromodulation Society, the North American Neuromodulation Society, and the World Institute of Pain. *Reg Anesth Pain Med* 2015; 40: 182-212

米 国

2. Horlocker TT, Wedel DJ, Rowlingson JC, et al: Regional anesthesia in the patient receiving antithrombotic or thrombolytic therapy: American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine Evidence-Based Guidelines, 3rd ed. *Reg Anesth Pain Med* 2010; 35: 64-101

欧 州

3. Gogarten W, Vandermeulen E, Van Aken H, et al: Regional anaesthesia and antithrombotic agents: recommendations of the European Society of Anaesthesiology. *Eur J Anaesthesiol* 2010; 27: 999-1015

英 国

4. Working Party, Association of Anaesthetists of Great Britain & Ireland, Obstetric Anaesthetists' Association, et al: Regional anaesthesia and patients with abnormalities of coagulation: the Association of Anaesthetists of Great Britain & Ireland The Obstetric Anaesthetists' Association Regional Anaesthesia UK. *Anaesthesia* 2013; 68: 966-972